

運行管理と健康管理は 同時進行で取り組もう

OCHISセミナー

【大阪】ヘルスケアネットワーク(OCHIS)、武田裕理事長は18日、「どう防ぐ!急増する健康起因事故」実効ある企業内健康管理の進め方」をテーマに第8回OCHISセミナーを開催した。

第1部は、労働科学研究所の酒井一博所長(国交省・高速ツアーバス等の過労運転防止のための検討会座長)が「適切な運行管理こそが最善の健康管理」と題して講演。事業用自動車の健康起因事故の発生状況について「平成14年が46件だったが同23年は143件と急増している」ことや、定期健康診断の有



所見率が鉄道を除くとトラック・タクシー・バスの運輸交通業が全産業と比べて「10ポイント以上高い」ことを説明。その上で水際の健康チェックとして点呼が有効とし、運行管理と健康管理の同時進行で取り組むことの重要性を説いた。

続いて、武田理事長が「健康起因事故を誘発する、その病気のメカニズム」を、作本貞子副理事長が「健康起因事故防止対策、まず押さえるべきは、健康診断とSAS検査を、黒田悦子保健師が「健診結果の実践的な使い方」についてそれぞれ講演。事業者の取り組みとして、センコー安環境管理部の竹村操係長が「ドライバーの健康管理を講演した。第2部ではパネルディスカッションが行われ、活発に意見を交わした。作本副理事長は「運行管理と健康管理を一緒に行う上で、総務、人事と事故防止対策室が別に動いていると、定期健康診断の結果を把握されていない運行管理者もけっこういる。重要な情報は共有し、合わせ技でリスクを浮き上げるといえる。具体的な仕組みづくりができれば、実効ある対策につながる」と総括した。(山田克明)